

# 自分たちのまちは自分たちで守る



昨年の東日本大震災による被害の様子

今から89年前の大正12年9月1日は、関東大震災が起きた日です。わたしたちは、この日を「防災の日」と定め、災害に対する認識を新たにすると位置付けています。昨年3月11日に発生した東日本大震災の被災地では、その爪痕が色濃く残っています。市では、地域の防災力を高めるため、自主防災組織結成の推進に取り組んでいます。あなたの地域では、災害への備えは万全ですか？

## 大きな被害が想定される 東京湾北部地震

地震は、いつでもどこでも起こる可能性があります。国の発表によると、千葉県を含む南関東地域でマグニチュード7クラスの地震が今後30年以内に発生する確率は70パーセント程度となっています。近年は大雨や台風による被害の発生も多くなる傾向があります。県では、近い将来県内に大きな影響を与える3つの地震（東京湾北部地震、千葉県東方沖地震、三浦半島断層群による地震）について

て被害想定調査を平成19年度に実施しました。最も被害が大きくなると想定されたのが東京湾北部地震です。

震度6弱以上の揺れの地域が、本市を含め、東京湾岸沿いを中心に県土の40パーセントにも広がるとされました。

また、この地震で発生する建物の全壊・半壊の被害は約22万棟、死傷者が約4万3、000人という試算結果です。建物の倒壊で下敷きや生き埋めとなり、救助が必要となる人は約1万人発生すると予測されました。

## 共助で被害を軽減

平成7年の阪神・淡路大震災では、家屋の倒壊などにより生き埋めになったり閉じ込められたりした人のうち、消防などの公的機関に救助(公助)された人はわずか2パーセントで、多くは自力または家族や隣人などの地域住民によって救出されました。

被災地域では災害発生直後から多くの火災が同時発生した場合、全ての災害現場に消防が駆けつけることは不可能な状態になるなど、公的機関による被災者支援などの緊急対応(公助)には限界があります。その反面、被害を最小限に抑

えるためには、災害発生後早い段階での救助が必要となります。

このような場合、隣近所の人がお互いに協力しながら、防災活動に組織的に取り組むこと(共助)によって、被害を軽減することができます。

災害発生時はもちろん、日ごろから地域の人たちが一緒になって防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」といいます。

## 自主防災組織で高める地域の防災力

自主防災組織は一般的に、自治会または町内会を単位として結成されます。

市内の区、自治会、町内会287組織のうち、自主防災組織が結成されているのは83の組織です。

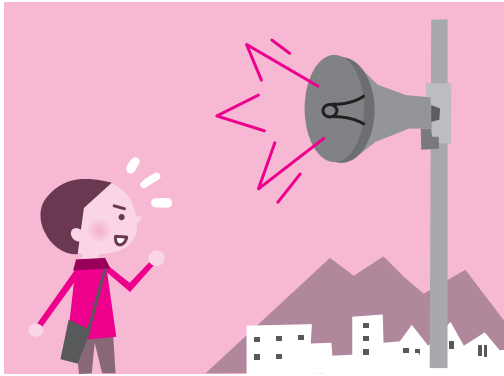
自主防災組織がまだ結成されていない地域では、自治会などが中心となり自主防災組織を設立することを検討してください。

自主防災組織の結成に当たっては、地域住民が自発的に参加でき、継続的に参加や活動ができることが重要です。

既存の自主防災組織では、平時における防災訓練や防災啓発を継続的に実施し、地域の防災力を高めていきましょう。

※くわしくは危機管理課(☎20・1523)へ。

## 防災行政無線などを使い 全国一斉に緊急情報伝達試験



全国瞬時警報システム(J-ALERT、ジェイ・アラート)とは、地震・津波や武力攻撃などの災害時に国から送られてくる緊急情報を人工衛星などを活用して瞬時に伝達するシステムです。

市では、このような緊急情報を、さまざまな伝達手段を用いて確実に市民の皆さんへ伝えるため、市内で緊急情報伝達手段の試験を行います。

日時=9月12日(水) 午前10時ごろと10時30分ごろの2回

放送の内容=「これは試験放送です」(繰り返し3回)、「こちらはぼうさい成田です」、防災行政無線チャイム

※成田市以外の地域でも、全国的に緊急情報伝達試験が実施されます。くわしくは危機管理課(☎20-1523)へ。

## 災害用チェックリスト

### 避難するときに持っていくもの

#### 貴重品

- 現金(小銭も)
- 印鑑
- 保険証
- 預金通帳や有価証券の写し
- 本人を確認できるもの

#### 衣類・洗面道具類

- 下着類
- くつ下
- セーター類
- タオル
- せっけん
- 歯磨き用品
- 紙おむつ
- 生理用品

#### 小道具類

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 乾電池
- 軍手
- ライター・マッチ
- 栓抜き・缶切り
- ティッシュ・ウェットティッシュ

- 使い捨てカイロ
- 筆記用具
- 雨具
- 救急セット(常備薬も)

#### 水・食料品

- 飲料水
- 非常食
- 飲料用ポリタンク

## 3日分を目安に備蓄しておくもの

懐中電灯(できれば1人1個・予備の電池も)、ろうそく、食料、ビニール袋、固形燃料、簡易ガスコンロ、1人1日3リットルの飲料水、ペット用の餌や水  
被害が大きいと、行政機関(自治体、消防、警察、自衛隊など)による救援活動も難しくなります。公的支援が受けられるまでのおおむね3日間は、自力で避難生活が送れるよう、あらかじめ準備しておきましょう。